

H/Y-2019の表彰にあたって

審査委員長 坂本雄三(東京大学名誉教授)

受賞者のみなさん、おめでとうございます。とはいえ、コロナ禍のために、2019年度のハウス・オブ・ザ・イヤ・イン・エナジーの表彰式が取りやめになってしまい、大変残念に思います。表彰にあたって、私のコメントを以下に掲載します。なお、毎回、掲載している応募住宅の統計は次々ページ以降に示しました。

- ZEHの普及とともに、応募者は毎年、着実に増加しています。
- 大賞受賞は4社(企業規模も考慮して4社に授与)です。もちろん、大賞受賞者の断熱・設備性能は極めて高いレベルです。2度目の大賞となったISdesignは、省エネ性能が1回目の受賞のときよりさらに向上した点が評価されました。
- 坂本賞受賞のエルクホームズは全館空調に積極的に取り組んでいることを評価したものです。

- H/Yは、今世紀の課題である環境・省エネルギー性能に焦点を当てて、住宅(戸建)を評価してきました。しかし、この分野の技術革新もかなり飽和的な状況になってきました。たとえば、断熱性能ではHEAT20委員会がG3水準を公表しました。G3は最高レベルの断熱水準と考えられています。
- 一方で、現代の建築技術は木造化や生産合理化という課題も抱えています。また、今回のコロナ禍は、一般の住宅に対しても空気清浄という新たな課題を突き付けています。したがって、今後は、従来の温熱環境と省エネルギー性能ばかりでなく、こうした新たな課題にもチャレンジするものも評価していきたいと考えています。
- 今後も、本表彰を継続し、日本の住宅の質的向上と高品質住宅の普及に貢献していきたいと思っていますので、皆様のご参加とご支援をよろしくお願い申し上げます。

応募と受賞の推移

回数	年度	応募 シリーズ数	大賞 数	特別 (優秀)賞	優秀賞	大賞受賞企業	特記事項
12	2019	264	4	82	157	リベスト、コージーホーム、 アイディール、Isdesign建築設計	
11	2018	227	3	68	144	泉北ホーム、住まいのウチイケ、 鈴木環境建設	採点基準の小変更
10	2017	215	4	63	137	ヤマト住建、セイダイ、 島野工務店、Isdesign建築設計	応募案件の質が向上した ので上位の賞の数を増加
9	2016	214	3	36	138	エルクホームズ、健康住宅、 北信商建	応募が増加したので、大賞 も3つに増やす
8	2015	128	2	29	87	一条工務店、アイ・ホーム	
7	2014	102	2	24	68	アエラホーム、ヤマト住建	
6	2013	57	1	18	30	松下孝建設	
5	2012	54	1	11	28	一条工務店	H/Y in energyに改称
	2011	東日本大震災のため中止					
4	2010	53	2	23	23	新昭和、松美造園建設工業	リフォーム部門と低層賃貸部 門も設ける
3	2009	43	2	9	27	日野建ホーム、フィアスホーム	
2	2008	28	2	8	12	パナホーム、サンワホーム	
1	2007	19	2	4	8	一条工務店、スウェーデンハウス	H/Y in electricとしてス タート

2019年度の評価・採点方法(変更なし)

三つの視点からの評価については例年と同じ
(100点満点)

①視点1:外皮・設備の省エネ性能(60点満点) (断熱性と1次エネルギー消費量)

- ・断熱性(1)⇒15点満点(小変更あり)
- ・断熱性(2)⇒15点満点(小変更あり)
- ・1次エネ消費量⇒30点満点(小変更あり)

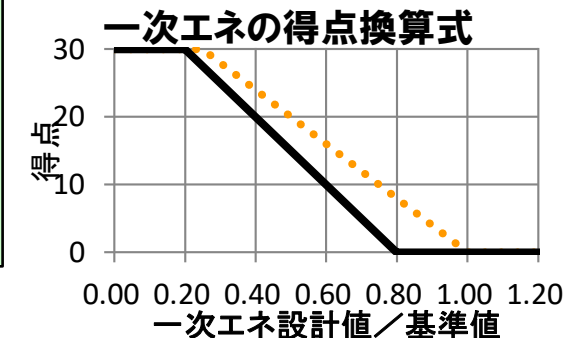
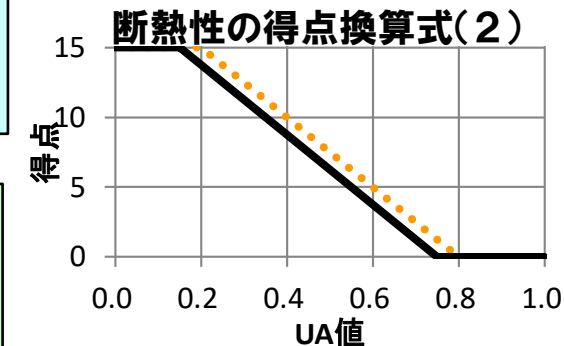
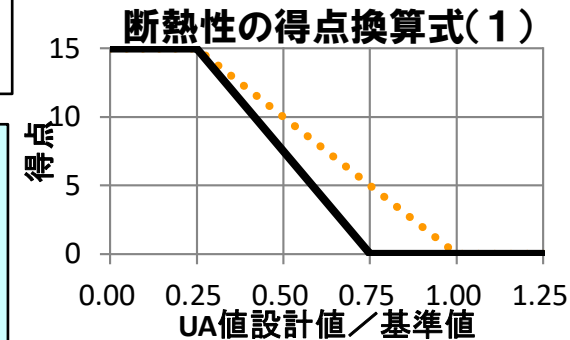
②視点2:多様な省エネ手法の導入 ③視点3:省エネ住宅の普及への取組 } 40点満点

＜応募シリーズの建設戸数に関する条件＞

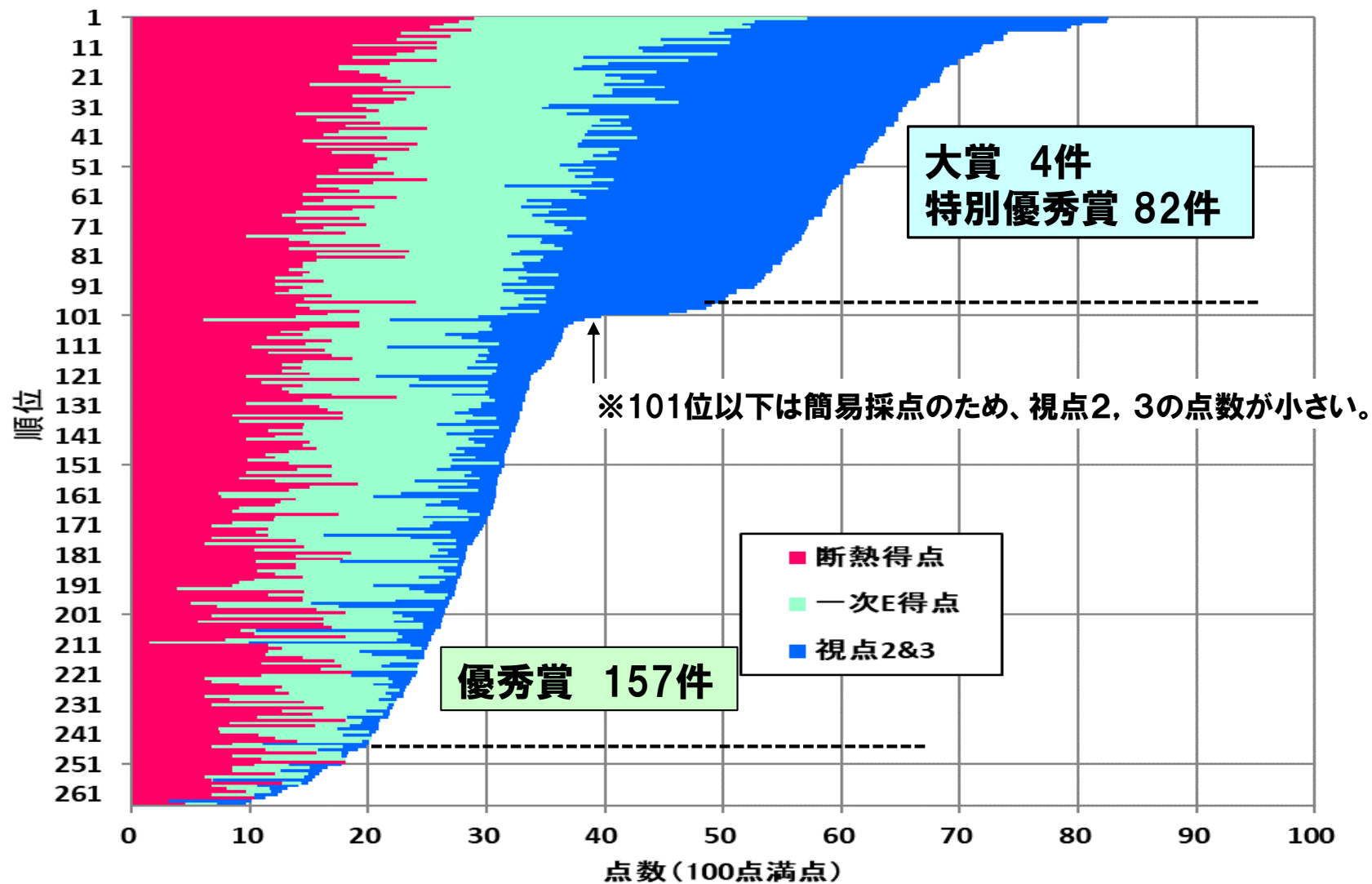
大賞は、建設戸数が5戸以上あること。

特別優秀賞は、建設戸数が3戸以上あること。

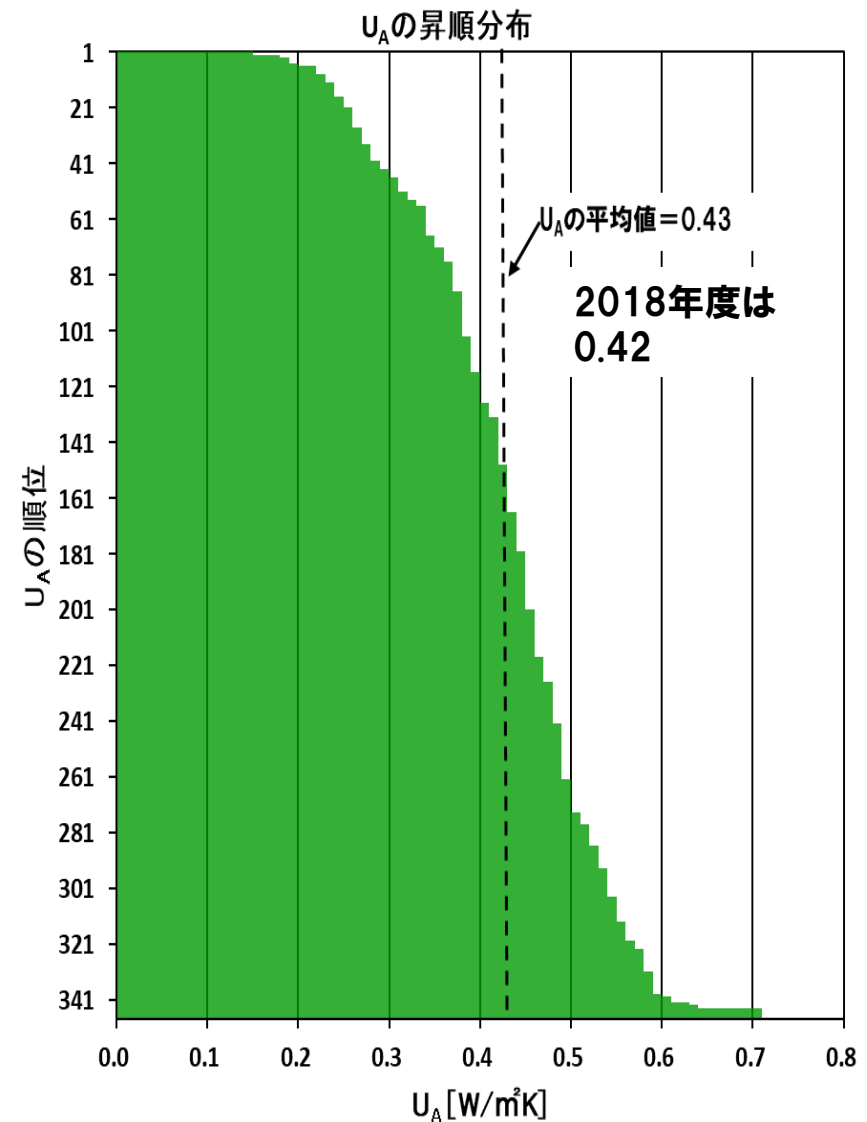
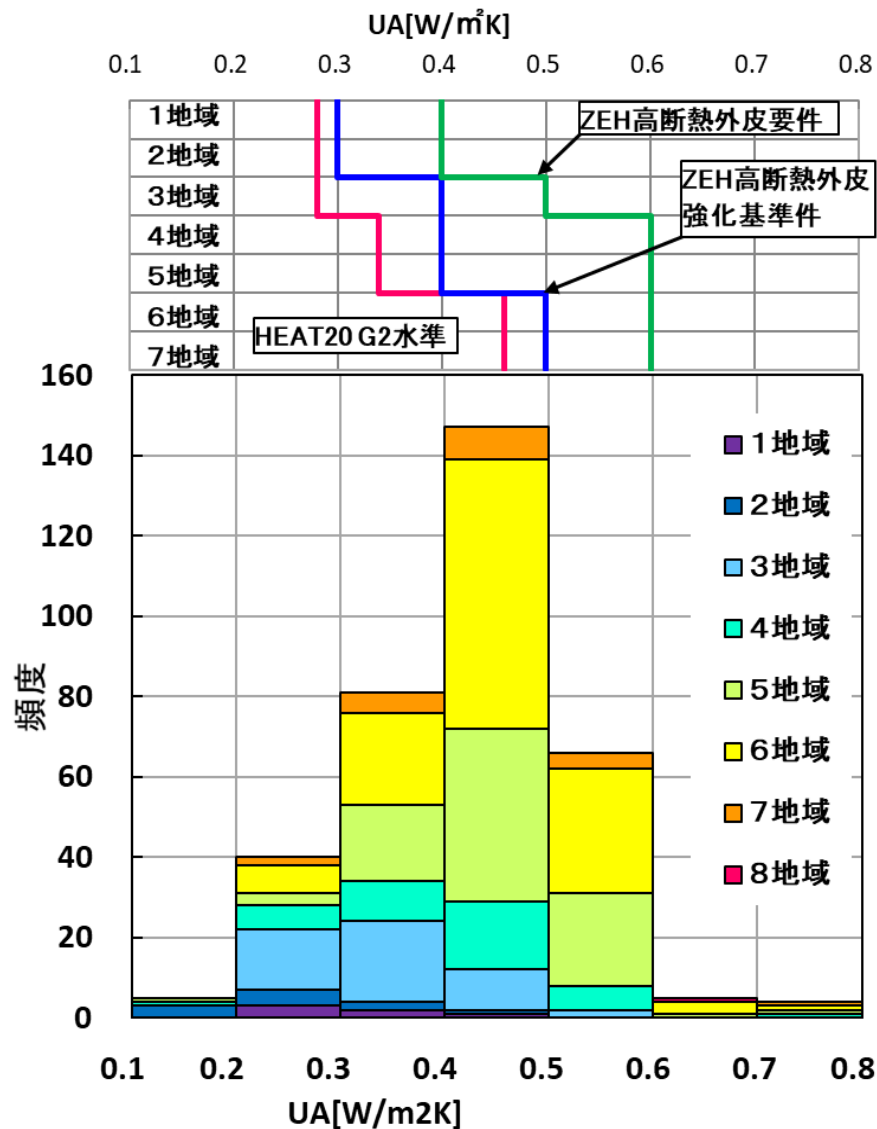
その他



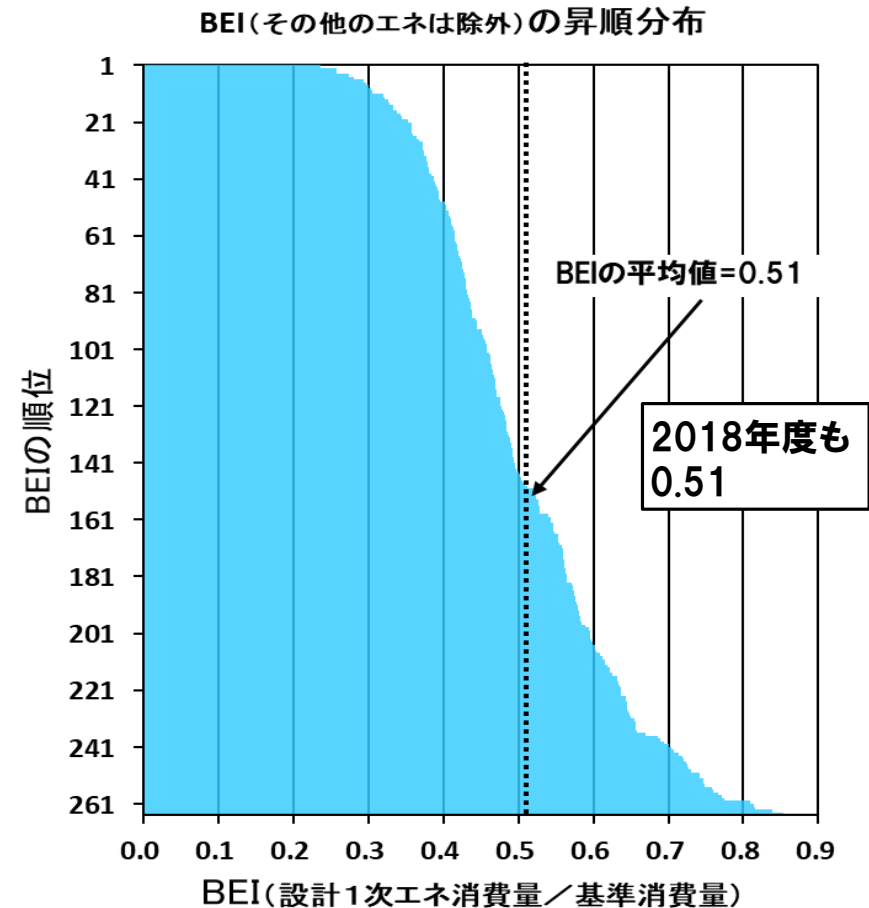
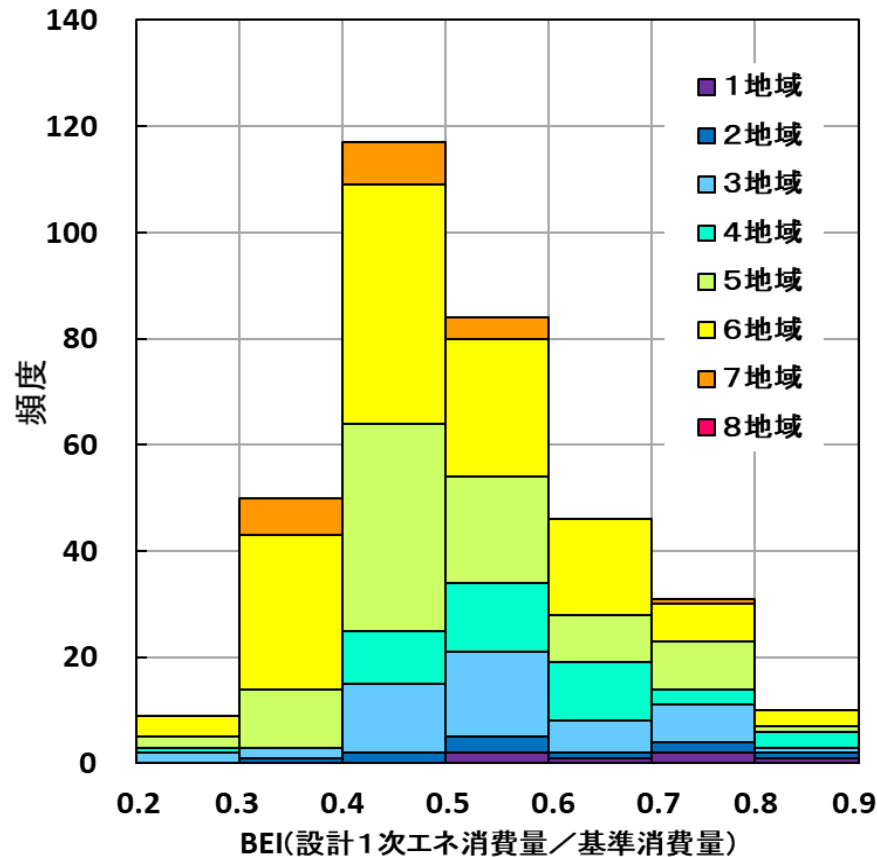
応募住宅の得点内訳



応募住宅の断熱性(U_A 値の頻度分布)



応募住宅の省エネ性(BEIの頻度分布)



$$BEI = \frac{\text{設計1次エネルギー消費量(その他エネを除く)}}{\text{基準1次エネルギー消費量(その他エネを除く)}}$$